

海外研修報告書

帝京科学大学
教務課教務第1係
蛇石 和希

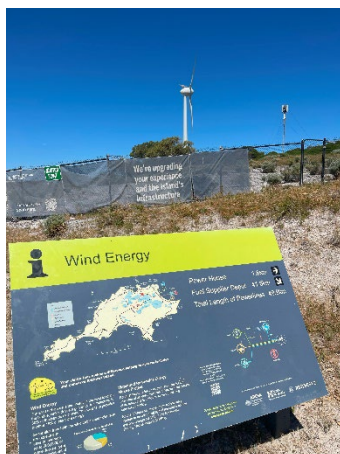
1. 研修内容について

■ ロットネスト島の歴史と環境への取り組み

ロットネスト島には、かつて先住民アボリジナルの人々が収容されていた「ザ・クオッド」という刑務所跡や、第二次世界大戦時に海岸防衛のために造られた「オリバー・ヒル砲台」などの軍事施設跡があり、島の複雑な歴史を今に伝えています。



ロットネスト島では、自然環境を守りながら観光を続けるために、さまざまな取り組みが行われています。島の電力は風力と太陽光を組み合わせで供給し、条件によってはほぼ再生可能エネルギーでまかなえるほどです。また、廃水を再利用してゴルフ場などの散水に使うなど、水資源の有効活用も進めています。生態系保全では、地元植物の植樹や外来種の駆除を行い、固有種のクオッカを守っています。さらに、島周辺には海洋保護区が設けられ、サンゴ礁や海草、オットセイの生息地を守るための科学調査も継続中です。ごみ削減やリサイクル率向上、観光客への啓発活動も重要な柱で、持続可能な観光モデルを推進しています。こうした取り組みを通じて、ロットネスト島は2050年までに温室効果ガス排出ゼロを目指し、自然と共生する観光地としての未来を築いています。



■ ECU Administrative Staff Development Program



① Mon 1 Dec International Agreements and Programs

国際プログラムと協定の管理方法、課題、改善策について説明がありました。内容は、国際交流協定の締結・更新、留学プログラムの運営、法的・文化的配慮、学生の体験とフィードバックに焦点を当てています。協定とプログラムの管理は体系化されており、契約更新や交換バランス、法的整合性を重視しています。協定は通常5年間で、交換留学は無償で実施。課題は更新の遅れや需要の不均衡ですが、ITツールや暫定延長で対応しています。プログラムは短期・長期型があり、文化や言語への配慮、安全管理を徹底。学生のフィードバックを改善に活用し、交流促進やコスト調整を図っています。今後は戦略的パートナーの強化と質的向上が重要です。印象的だったのは、単に提携数を増やすのではなく、大学にとってのメリットが明確である点です。学生、大学環境、収益など、すべてがプラスになるよう設計されていました。

② Mon 1 December - Wellbeing at ECU

ECUでは、職場におけるウェルビーイング（心身の健康と幸福）を推進するためのフレームワークと取り組みが紹介されました。ウェルビーイングは、身体・精神・感情面の健康、目的意識、社会的つながりを統合した文化を重視しています。フレームワークは「個人・チーム・組織」の3層構造で、年次アクションプラン、委員会、メンタルヘルス研修、ピアサポート制度を導入。これにより、生産性向上や離職率低下、最大6倍の投資効果が期待されています。ウェルビーイングは、組織と個人の共有責任であることが強調されました。印象的だったのは、学生や教職員の支援が単なる福祉ではなく、仕事の効率や継続率、卒業率、授業料確保、労災削減など、大学の収益にも直結している点です。また、組織だけでなく、個人も自分のウェルビーイングに責任を持つという視点は新鮮でした。

③ Mon 1 December Academic and Quality Standards

SGSCは大学の戦略支援とガバナンスを担い、学術品質・基準を含む5部門で構成されています。Academic Quality部門は教育・研究の質を保証し、HESFやESOS法、RTO基準などの遵守を監督。TEQSAとASQAが規制を行い、ECUは自己認証機関として、ガバナンスフレームワークやポリシー、委員会を通じてコース品質、学生成果、継続的改善を確保しています。

Academic BoardやCurriculum Committeeなどの委員会は、カリキュラム承認、学術政策策定、

国際要件の監視を担当し、教育・研究の質向上を推進します。さらに、5つの専門ユニットが学生や社会の状況を徹底的に調査し、国内外の法令を確認する体制を整備。これらのユニットが、5年ごとの戦略と指標達成の中核を担っています。

④ Student Support – Erin Bishop

ECU では、学生支援を多面的に提供しています。Student Hub は履修や進路相談の窓口、Student Success は学業進捗、健康、国際学生のビザ遵守、経済・住居支援を担当します。TNP Support は留学、交換留学、二重学位、海外提携校をサポート。Health Services では学内で GP 診療や予防医療を提供し、The Living Room はメンタル面のピアサポートを実施。心理カウンセリングは無料で対面・オンライン対応です。さらに、Student Incident & Support は重大事故や性暴力被害への支援、Access and Inclusion は障害や特別支援に対応し、学習調整を行います。加えて、学習アドバイザー、PASS、キャリア支援、Student Guild が学習・就職・生活面を包括的にサポートします。

印象的だったのは、学生が困ったときに利用する窓口が一つに統合され、そこから適切な部署へ接続できる仕組みです。本学では状況に応じて訪れる窓口が異なり、たどり着けないこともあるため、大きな差を感じました。同じ環境をすぐに作ることは難しいですが、教務課内の連携を強化する必要があると感じました。



⑤ TUE 2 December – HE Management in the age of AI

AI 時代の高等教育管理では、**「3D」(Discrimination・Digital Mindset・Digital Literacy)**が重要です。AI の価値とリスクを見極め、業務をデジタル要素に分解し、適切なツールを選択する力が求められます。課題は、能力・設計・期待・コスト・ソリューションの5つのギャップであり、文化的変革と安全な試行環境が不可欠です。

解決策としては、AI 活用事例の共有、コミュニティ形成、業界連携、ガバナンス強化が挙げられます。また、プロンプトエンジニアリングは必須スキルであり、AI 導入には時間と組織的努力が必要です。

印象的だったのは、時代に求められる最先端スキルを学生教育に取り入れ、社会の要求に応えることで、企業からの評価を高め、入学生の確保につなげている点です。

⑥ Wed 3 December Adapting to Australian Government Policy

オーストラリアの国際教育は輸出産業として非常に重要で、2023年には約470億豪ドルを生み出しました。近年、移民戦略やビザ要件の厳格化、MD115による三層ビザ処理制度など、政策が大きく変化しています。大学はこうした変化に対応するため、学生市場の多様化、教育の品質とレジリエンス強化、政府との連携を進めています。

さらに、日本との教育協力も強化されており、学生交流、共同研究、学位プログラムを通じて持続可能な成長と国際競争力の向上を目指しています。国の政策としても国際教育は重視されており、相手国の法律や制度を熟知し、要求に応えることが不可欠であると感じました。

⑦ Wed 3 December Marketing in an Australian university

ECUはブランド刷新を進めています。新戦略の中心は**「Human Creativity」で、創造的思考を教育の核に据え、産業や社会課題の解決に貢献する人材育成を強化しています。2026年開設予定の新キャンパス「ECU City」**は、都市再生と大学の変革を象徴するプロジェクトです。ブランド刷新では、ロゴやカラーを現代的に再設計し、学生中心の体験、産業連携、実践的学びを重視。ECUは、創造性を通じて社会に影響を与える大学として、未来志向の教育モデルを提示しています。

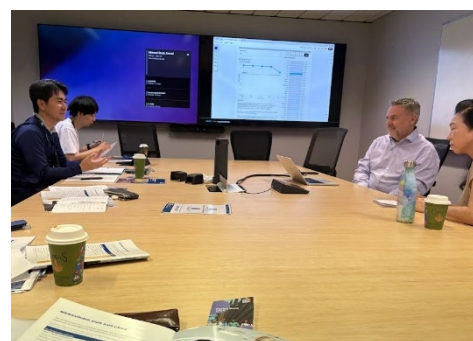
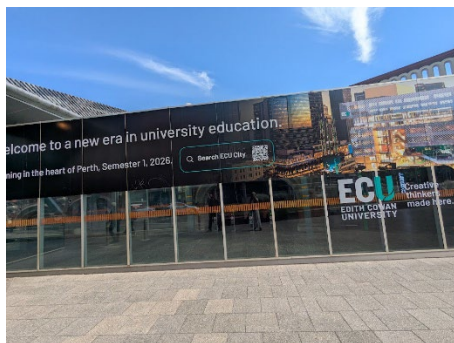
印象的だったのは、一流企業のように明確なブランドイメージを定め、それを守りながら、戦略的なプランに基づいてすべてを実施している点です。

⑧ Wed 3 December Planning and Performance Reporting

ECUの戦略・計画部門は、大学の中長期的な方向性を示す戦略計画と、その実行を支える運営計画を策定・監視しています。戦略計画ではビジョン、目標、優先事項を明確にし、全学的な合意を得ることで組織全体を同じ方向に導きます。

計画体系は、戦略計画（2022-2026）を頂点に、8つの支援計画、26の運営計画、さらに個人の業務計画へと連動。進捗は22のKPIで測定し、年次報告を理事会や州議会に提出します。政府改革により、2026年から新たな補助金が導入され、ガバナンス強化も進む見込みです。

印象的だったのは、ゴールや優先事項、数値指標が明確で、教職員全員がそれを仕事の中心に据えている点です。大きな戦略が個人の業務にまで落とし込まれ、個々の達成が大学全体の発展につながっていました。



⑨ Thu 4 Dec Governance, Legal and Compliance

ECU のガバナンスは、Edith Cowan University Act 1984 や TEQSA 基準に基づき、大学評議会（最大 17 名）と複数の委員会で構成されます。評議会は戦略計画、予算、リスク管理、学術活動などを監督し、63 項目の決定事項を保持。法務部門は契約、知的財産、雇用、研究など幅広い分野で助言を提供。コンプライアンスは AS3806 に準拠し、責任割当、監視、改善を重視。

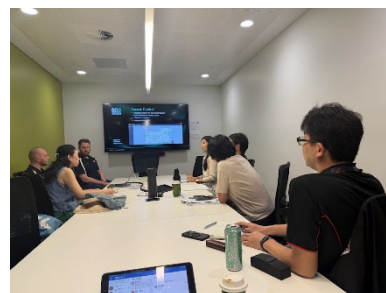
2025 年は国際規制対応や自動化を推進。倫理面では行動規範に基づき、贈答品、利益相反、研究倫理、SASH 対応などを管理。さらに、2026 年施行予定のジェンダー暴力防止コードへの準備も進行中です。

⑩ Thu 4 December – Campus Management Security

ECU のセキュリティは、Joondalup、Mt. Lawley、Bunbury、そして 2025 年 12 月開設予定の City Campus を対象に運営されています。目的は「防止・準備・対応・回復」で、D3R1 モデル（Deter、Detect、Delay、Respond）を採用。高可視性の警備に加え、AI 搭載 CCTV（約 1,200 台）、アクセス制御システム（Gallagher、1,000 扉、15,000 カード）を整備しています。

24 時間体制のコントロールルームで緊急対応を指揮し、2024 年には盗難 18 件、器物損壊 15 件など、年間 3,000 件超の対応実績があります。警備員は巡回、初期対応、応急処置、メンタルヘルス支援を担当し、施設管理や学生支援チーム、緊急サービスと連携して安全なキャンパス環境を維持しています。

全体的に非常に高いレベルのセキュリティで、本学がすぐに参考にできる部分は少ないものの、City Campus での警備も含め、この高度な体制が大学への信頼やマーケティングにもつながっていると感じました。



⑪ Thu 4 December Global Education Delivery_Transnational Education

ECU は西オーストラリアの公立大学で、国内 3 キャンパスに加え、2023 年にスリランカ・コロンボに初の海外キャンパスを開設しました。TNE（国境を越えた教育）は、学生が自国で海外大学の学位を取得できる仕組みで、世界的に需要が急増し、300 以上の分校が存在します。TNE の利点は、留学費用削減、家族との距離維持、国際的資格取得によるキャリア強化など。ECU は中国、ベトナム、シンガポールで提携を展開し、教育・看護・スポーツ科学などのプログラムを提供。TEQSA はオフショア教育の品質保証を強化し、学習成果の同等性や学生支援を重視。スリランカ校では商学、コンピュータ科学、心理学、看護学など幅広い学位を提供し、地域社会に大きな影響を与えています。

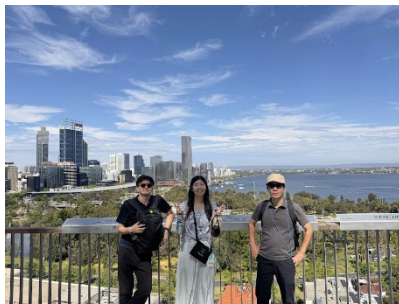
⑫ Fri 5 Dec - Intl student recruitment at ECU

ECU の国際学生募集については、西オーストラリア州（WA）と ECU の魅力、提供プログラム、奨学金、入学要件、将来のキャリア機会が説明されました。ECU は WA の強みを活かし、工学、IT、ビジネス、看護、芸術など幅広い分野で国際学生に魅力的なプログラムと奨学金を提供しています。生活費や交通費の割引、卒業後の就労機会も充実しており、特にサイバーセキュリティ、看護、芸術分野で強みがあります。

海外から学生を募集するためには、充実したサポートに加え、地域の魅力や強み、卒業後のキャリアまでイメージできるような情報提供が重要であることが強調されました。

2. オーストラリアの生活や文化

オーストラリアの生活は、自然と都市が調和した環境が特徴です。広大な国土に美しいビーチや国立公園があり、アウトドア活動が盛んです。文化面では多文化社会であり、移民が多く、食文化やライフスタイルに多様性があります。ヨーロッパやアジアからの移住者や留学生が増えており、人口の増加率が非常に高くなっている。フレンドリーでカジュアルな雰囲気を重視し、ワークライフバランスを大切にします。スポーツは国民的関心事で、クリケットやオーストラリアンフットボールが人気。教育水準も高く、留学生にとって学びやすい環境が整っています。



3. 休日・余暇の過ごし方

研修では、参加メンバー全員で観光を楽しみました。別行動はせず、各自が行きたい場所を挙げ、それを組み合わせて全員で回る方法を取りました。移動はできる限り電車やバスを利用し、必要に応じてタクシーも活用しました。

・動物園 Caversham Wildlife Park

キャバーシャム・ワイルドライフ・パークは、西オーストラリア州パース近郊のホワイトマンパーク内にある、オーストラリア固有動物とのふれあいが魅力の動物園です。約 200 種・2,000 頭の動物を飼育し、カンガルーへの餌やりやコアラとの写真撮影、ウォンバットやポッサムとの交流などが楽しめます。さらに、牧羊犬の作業や羊毛刈りを見られるファームショーも人気。

動物福祉に配慮した運営が行われています。広い自然環境に近いスペースで飼育され、動物がストレスを感じにくいよう工夫されています。カンガルーやコアラとのふれあい体験も、動物の安全と健康を最優先に、時間や人数を制限して実施。餌やりは専用フードのみ使用し、過剰な接触を避

けるルールがあります。また、教育的な展示やガイドを通じて、訪問者に動物保護の重要性を伝える取り組みも特徴です。

展示方法は日本のズーラシアに似ており、まるで動物が暮らす森に人が訪れているかのような造りでした。動物へのストレスを軽減する工夫が随所に見られ、オーストラリア固有の動物も多く観察でき、とても良い体験でした。

・水族館 AQWA - The Aquarium of Western Australia

パース郊外ヒラリーズにある、オーストラリア最大級の単一水槽（300 万 L）を誇る海洋水族館です。西オーストラリア沿岸を 12,000km にわたるテーマで再現し、サメやエイ、ウミガメ、海草礁など約 400 種の生物を展示。98m の海中トンネルやタッチプールも設置され、大人から子どもまで海洋体験が楽しめます。環境保全に向けては、AQWA 施設を活用した CSIRO との環境 DNA (eDNA) 研究で、動物へのストレスを与えず海洋生態系をモニタリング。さらに、ウミガメの救護・リハビリ・リリース活動を行う教育プログラムを実施し、海洋保護の意識向上にも貢献しています。

私の希望で、海外の水族館に初めて行きました。日本でも水族館が好きで多く訪れていますが、今回の展示は日本の水族館よりも色彩が非常に印象的でした。さらに、滞留を防ぐために動く歩道が設置されている点は、日本にはない工夫で、とても新鮮でした。



・ワイナリー Nikola Estate

1830 年代から続く歴史あるスワンバレーのワイナリーで、2019 年にユキチ家により再生された銘醸。70ha の畑で独自の伝統と革新を融合し、ギャラリー、レア、地方、エステートの 4 レンジ約 28 種のワインを生産。自然環境に配慮したサステナブルな栽培を推進しつつ、樹齢古いブドウ樹や伝統的醸造技術を活かした品質が魅力です。

赤ワインを 3 種類試飲させてもらい、1 本を購入しました。帰国後友人との会食でいただきましたが、とても美味しいワインでした。

・ パース駅周辺散策

宿泊がパース駅から近い所にあったため、研修終わりの夕食までの間など、空き時間を有効利用して、街を散策したり、お土産を買うことができました。歩いている人も多国籍で活気があり、南半球の夏のクリスマスの雰囲気も楽しむことができました。お土産はスーパーで買うのがリーズナブルで種類も多く良かったです。日本食には行かず、食文化も楽しむことができました。ほとんどの場所でクレジットのタッチ決済が使用でき、現金はほとんど使いませんでした。2万円くらい両替しましたが、5千円くらいでも良かったかもしれません。物価は日本の1.5倍くらいでした。

4. 研修を通して学んだこと

このプログラムを通じて、教育を重視するのか、経営を重視するのかという従来の考え方自体が誤りであることに気づきました。ウェルビーイングは単なる福祉ではなく、学生や教職員が安心できるコミュニティを整え、最終的には大学の利益に直結させる仕組みになっていたことが衝撃的でした。また、100以上の大学との連携により、学内の多様性や学生満足度を高めると同時に、留学生からの収入を確保し、特定の国の事情によるリスクを回避していました。さらに、どの部署でも産業界の要求に応えることが強調されており、必要なスキルを分析し、それを教育に反映させることで、大学のマーケティングや安定的な収益につなげていました。ECUは、一流の教育と経営が融合した理想的な組織であり、教育と経営を分けず、両者を一体化させることが重要だと学びました。市場や学生のニーズを分析し、大きな戦略を策定し、大学・学生・社会が同じゴールに向かう仕組みが必要です。さらに、戦略パフォーマンスの説明では、大学全体の戦略が個人レベルまで落とし込まれ、個々の成果が大学の発展につながる仕組みが構築されていました。5年ごとの目標が明確な指標として設定され、毎年見直しながら全学が同じ方向に進んでいることが印象的でした。教職員全員が共通の目標を持ち、大学の戦略が個人の目標に変換され、個々の達成が大学の成長に直結するという点を強く学びました。

5. 後輩職員へのアドバイスなど

研修の話が出たとき、英語力に不安があり参加を迷いましたが、結果的に本当に行ってよかったと思います。もちろん多少の会話は必要ですが、事前研修で最低限のコミュニケーションは学べます。研修プログラムの内容は、英語が多少できても難しいため、通訳の方の説明をしっかりと聞き、日本の現状や自分の業務について考えや質問を日本語で準備しておくことの方が重要でした。

また、後から共有するだけでは限界があり、現地でキャンパスを見て直接話を聞き、感じ取れるものは大きな価値があります。ぜひ後輩職員にも来年度以降参加してほしいと思います。さらに、戦略やマーケティングなど大学全体を動かす内容も多いため、管理職の参加も必要だと感じました。